

分散投資の候補となる

いま注目の こう提案

新商品の取扱いが増加!

投資信託は する

市場の変化や運用ニーズの多様化を背景に、新しいタイプの投資信託が続々と登場しています。本特別企画では、新商品の提案を切り口とした分散投資の重要性をみたくて、分散投資の候補として注目される投資信託の商品性と提案のポイントについて解説します。

伊藤亮太

スキラージャパン株式会社
ファイナンシャルプランナー

1 新商品の提案を切り口に お客様への提案の幅を広げよう

現

在、ファンドには様々な種類があり、年々投資対象の幅は拡大傾向にある。この背景には、その時々々のマーケット動向の変化や、投資家の運用ニーズの多様化などが挙げられる。

2015年に入ってから、原油価格の下落やギリシャ不安、米経済指標の軟調さ等を背景に、株式市場では芳しくない状況が続いている。株価が上昇傾向にあれば株式ファンドを提案すれば受け入れられやすいだろうが、今の状況では必ずしもそうもいかない。

そのような中で、金融機関の担当者に求められるのは、提案の引出しを多く持つておくことだ。多くの引出しを持つておくことができれば、お客様の保有商品の上昇局面、下降局面いずれにおいても対応が可能であり、ポートフォリオ提案をベースに新商品の提案につなげていくこともできる。

本特別企画では、昨今注目を集めているファンドを紹介し、どのような局面でもお客様のニーズをくみ取り、購入につなげるためのアプローチ方法をトピック例とともに解説していきたい。

どれだけ分散効果が 得られるかを伝える

新しいタイプの商品を提案する際には、その商品の特徴をしっかりと押さえておくことはもちろん、お客様が現在所有するファンドと併せ持つことで、どの程度の「分散効果」が得られるかを説明することが購入につながるポイントだ。そのためには、お客様が現在所有するファンドの現状を把握し、新商品に分散投資する場合のポートフォリオの配分、期待できるリターンについても準備をしておくべきだろう。

今回紹介する新商品は、MLP

ファンド、JPX日経インデックス400連動型ファンド、物価連動国債ファンド、ハイブリッド証券ファンドの4つ。この4ファンドは、それぞれ、運用対象となる金融商品が大きく異なり、各ファンドともに特徴をしっかりと持っている。

そのため、今回取り上げた4つのファンドは、いずれかが担当するお客様に対し分散投資の候補として提案できる商品となる可能性が大きいだろう。

詳細な商品の特徴や提案内容は各商品のページで解説するが、例えば、株式には興味がないが、インフレには対応しておきたいというお客様は少なくない。このようなお客様には、物価連動国債ファンドを提案できる。

またエネルギー関連に興味がある方、中でも米国のシェールガス革命等の話題が会話の中で出れば、MLPファンドでの長期投資を提案でき、通常の債券よりもより高い利回りを求めるお客様であれば、ハイブリッド証券ファンドを提案できるだろう。

日頃の会話から

お客様のニーズをつかむ

また高齢のお客様の中には、バブルを経験し、日本株式にはあまり良い思い出がないという方も少なくない。ただそういった中でも、昨今の株価上昇をチェックしている方も多く、今後の日本経済を展望したとき期待ができる企業に的を絞って運用してみたいという方も徐々に増えてきている。そうしたお客様には、JPX日経インデックス400連動型ファンドを提案できるだろう。

新たなタイプの商品の提案に際しては、日頃からお客様とのコミュニケーションを密にし、お客様のニーズや興味をつかんでおくことが求められる。

次頁以降で解説する4つのファンドの商品性と提案のポイントには、お客様への提案のトピック例も記載してある。ぜひこれを参考に、お客様の運用の幅を広げるとともに、金融機関の担当者として成果にも結びつけてもらいたい。